

決算説明会資料

→2008年5月期中間決算



TVシリーズアニメーション「図書館戦争」

©有川浩・メディアワークス／図書館戦争製作委員会

JASDAQ

Listed company 3791



TVシリーズアニメーション「RD 潜脳調査室」

©Production I.G・士郎正宗/NTV・VAP・IG・DNDP

2008年1月24日

株式会社IGポート

企業概要

- **社名** 株式会社IGポート
- **証券コード** 3791
- **上場市場** JASDAQ証券取引所
- **上場日** 2005年12月21日上場
- **所在地** 東京都国分寺市
- **代表者** 代表取締役社長 石川 光久
- **資本金** 701,400百万円(発行済株式数42,558株)
- **設立時期** 1990年6月(創業1987年)
- **事業内容** アニメーションの企画・制作および版權事業
- **従業員数** 連結名 (2007年11月末現在)
- **子会社** 株式会社プロダクション・アイジー(連結・新設分割会社)
株式会社ジーベック(連結)
株式会社マッグガーデン(持分法適用会社)
Production I.G.,LLC (非連結・米国)
amimo LLP (持分法適用会社)
他作品製作委員会2社(持分法適用会社)

決算の概要

2008年5月期中間決算概要(前年同期比)

当期実績は、前年比減収・減益となった。

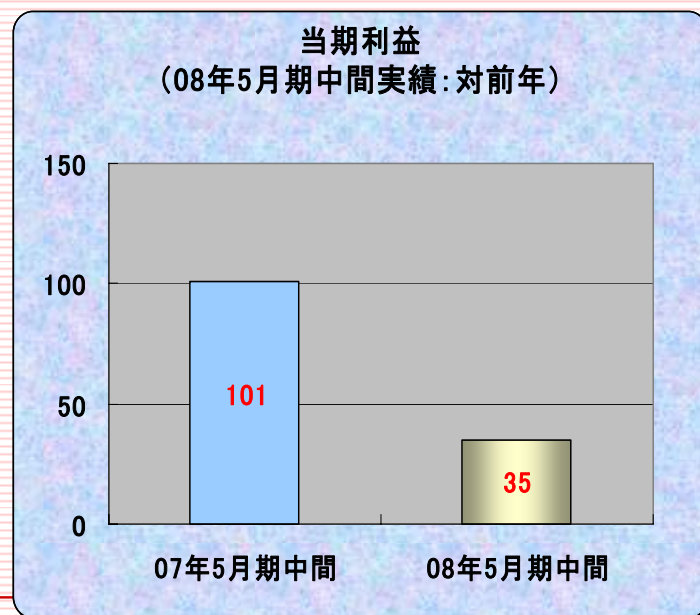
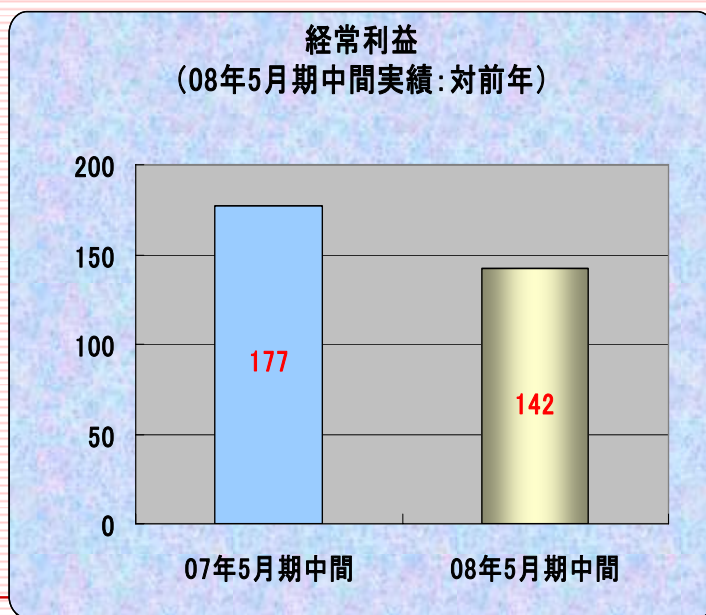
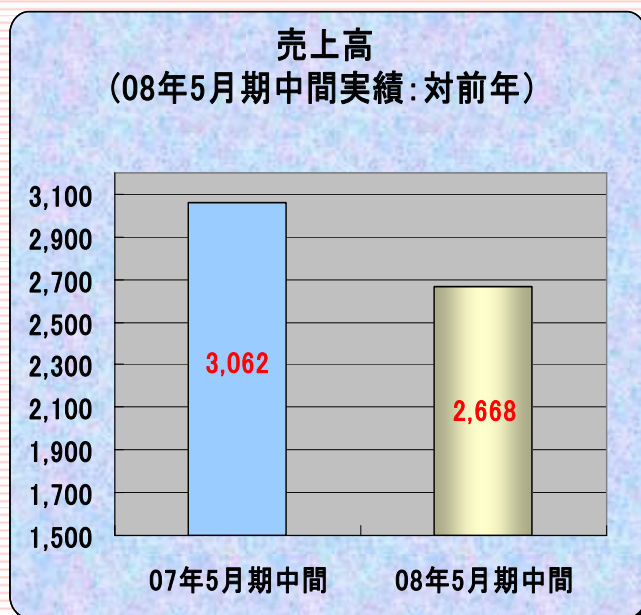
■07年5月中間期は大型オリジナルビデオアニメーション作品の納品があり、第一四半期で大きく売上と利益を計上していた、当期は上期に大型作品の納品はなく、前期大型作品納品の反動減により減収・減益となった。

■また、当期にアニメーション作品への出資分(映像マスター)の償却期間を2年から1年に変更したことにより約1億1千万円の特別損失を計上、当期純利益の大きな減益要因となった。

■連結売上高……………2,668百万円(前年比 ▲394百万円 ▲12.8%)

■連結経常利益……………142百万円(前年比 ▲35百万円 ▲19.6%)

■連結当期利益……………35百万円(前年比 ▲66百万円 ▲64.6%)



2008年5月期中間決算概要（計画比）

当期実績は、計画比増収・増益となった。

■制作事業ではTVシリーズ「ウエルベールの物語」「神霊狩/GHOST HOUND」の納品が計画比前倒しとなった。また、DVD販売・グッズ販売・番組海外販売等による著作権収入は「攻殻機動隊 S.A.C.」「エヴァンゲリオン」のDVD-BOX及び「シュヴァリエ」の海外番組販売等の著作権収入が計画比前倒しで計上され、売上高は計画対比+468百万円(+21.2%)で着地した。

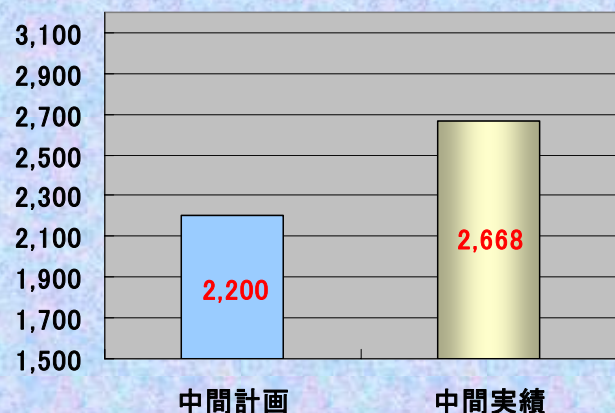
■制作事業・著作権事業とも計画を上回ったため、経常利益+47百万円(+23.8%)当期利益+57百万円(+159.0%)と計画を上回った。また、下期に見込んでいた社員向け保険の見直しによる解約返戻金(約60百万円)を特別利益で計上したことも影響している。

■連結売上高……………2,668百万円(計画比 +468百万円 +21.2%)

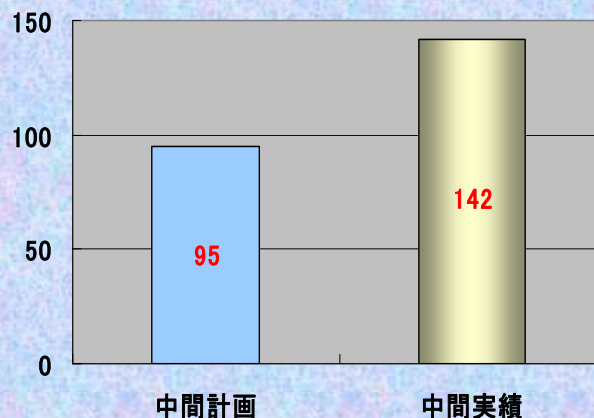
■連結経常利益……………142百万円(計画比 +47百万円 +49.4%)

■連結当期利益……………35百万円(計画比 +57百万円 +159.0%)

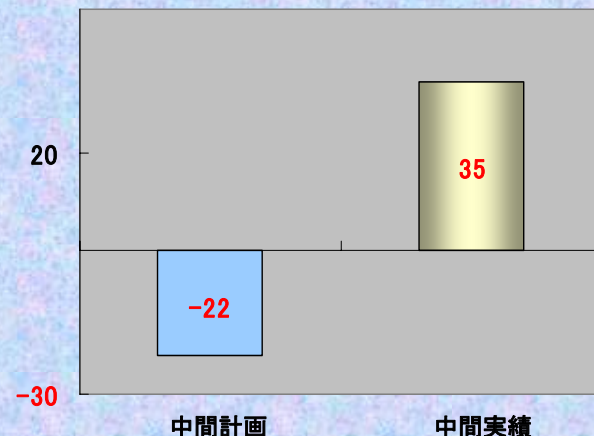
売上高
(08年5月期中間実績:対計画)



経常利益
(08年5月期中間実績:対計画)



当期利益
(08年5月期中間実績:対計画)



2008年5月期中間決算（損益計算書要約・前年同期比）

単位:百万円

	2007年5月期中間	2008年5月期中間	増減率
売上高合計	3,062	2,668	-12.8%
制作事業売上	2,667	2,201	-17.5%
著作権事業売上	364	428	17.6%
その他売上	31	39	26.0%
売上原価	2,696	2,337	-13.3%
売上総利益	366	331	-9.4%
(売上総利益率)	12.0%	12.4%	
販売費・一般管理費	208	213	2.7%
営業利益	158	118	-25.3%
(営業利益率)	5.2%	4.4%	
経常利益	177	142	-19.6%
(経常利益率)	5.8%	5.3%	
特別利益	3	60	1575.2%
特別損失	0	123	
当期利益	101	35	-64.6%

07年5月期中間には1Qに大型OVA作品「攻殻機動隊 S.A.C. Solid State Society」の納品があったが08年5月期中間では大形作品の納品がなく、制作事業の売上高は減少。

人気作品「エヴァンゲリオン」「攻殻機動隊 S.A.C.」のDVDBOXが発売されたため著作権収入は増加

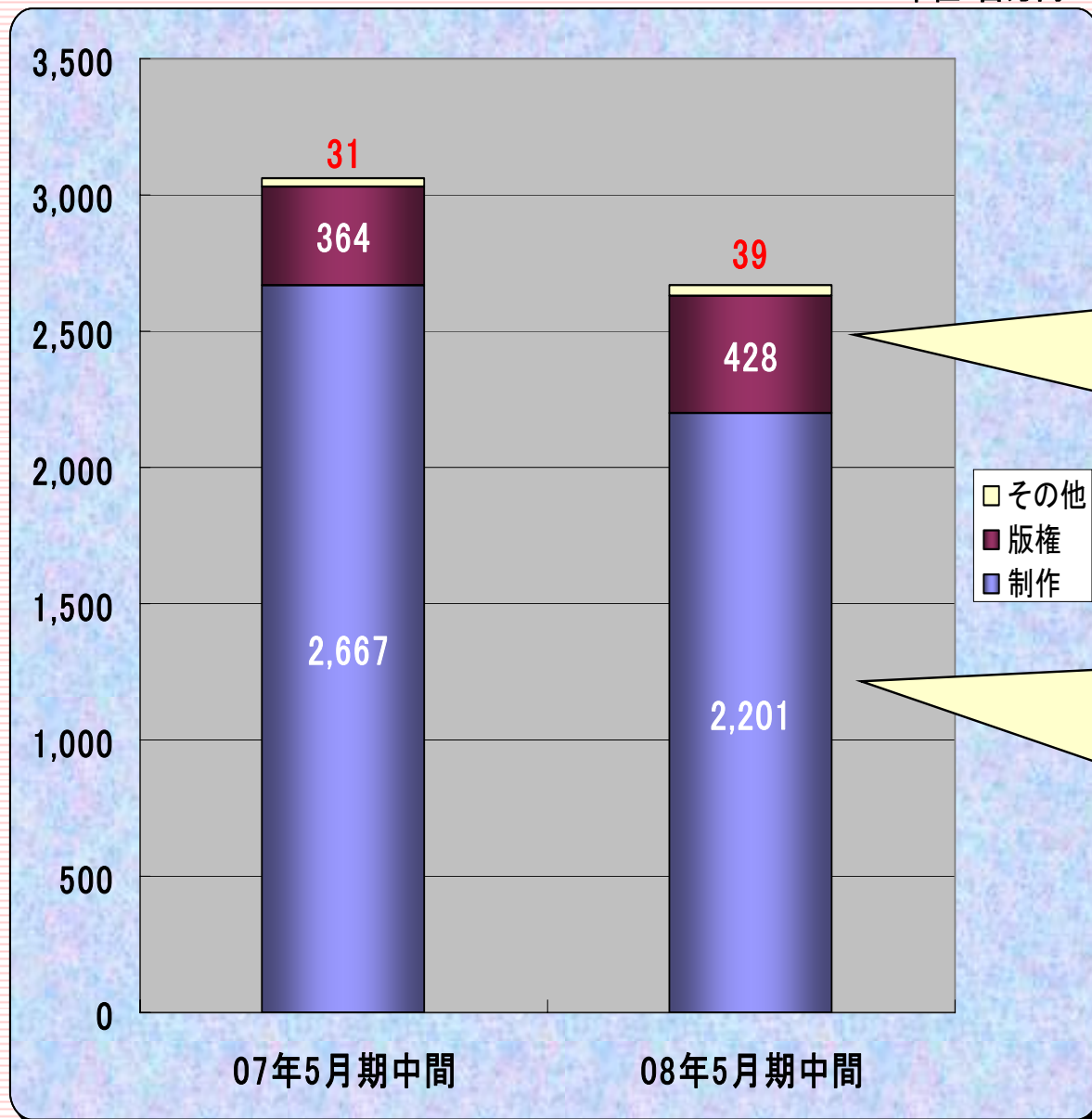
利益率の高い著作権事業が増加したが、作品への出資である映像マスターの償却期間を2年から1年へ見直したことにより単年度では原価増となり、粗利率は微増にとどまった。

映像マスターの償却期間見直しに伴い、放送から1年以上経過した作品の映像マスターを一括して特別損失で処理した。

前期に存在した大型作品の納品の反動減により、制作事業売上は減収となった。利益率の高い著作権収入は増加したが、映像マスター償却期間の見直しによる原価増も影響し前年比減益となった。

2008年5月期中間決算(セグメント別分析・前年同期比)

単位:百万円



著作権事業収入

07年5月期中間

「攻殻機動隊 S. A. C.」「BLOOD+」「エヴァンゲリオン」などで著作権事業売上は構成。

08年5月期中間

「攻殻機動隊 S. A. C.」「BLOOD+」「エヴァンゲリオン」「シュヴァリエ」等で著作権事業売上は構成。

過去人気作品のDVDBOX売上が大きく貢献している。

※次頁参照

制作事業収入

07年5月期中間

「BLOOD+」「xxxHOLiC」「シュヴァリエ」「ロックマンシリーズ」「韋駄天翔」また大型OVA作品「攻殻機動隊 S. A. C. Solid State Society」を制作。

08年5月期中間

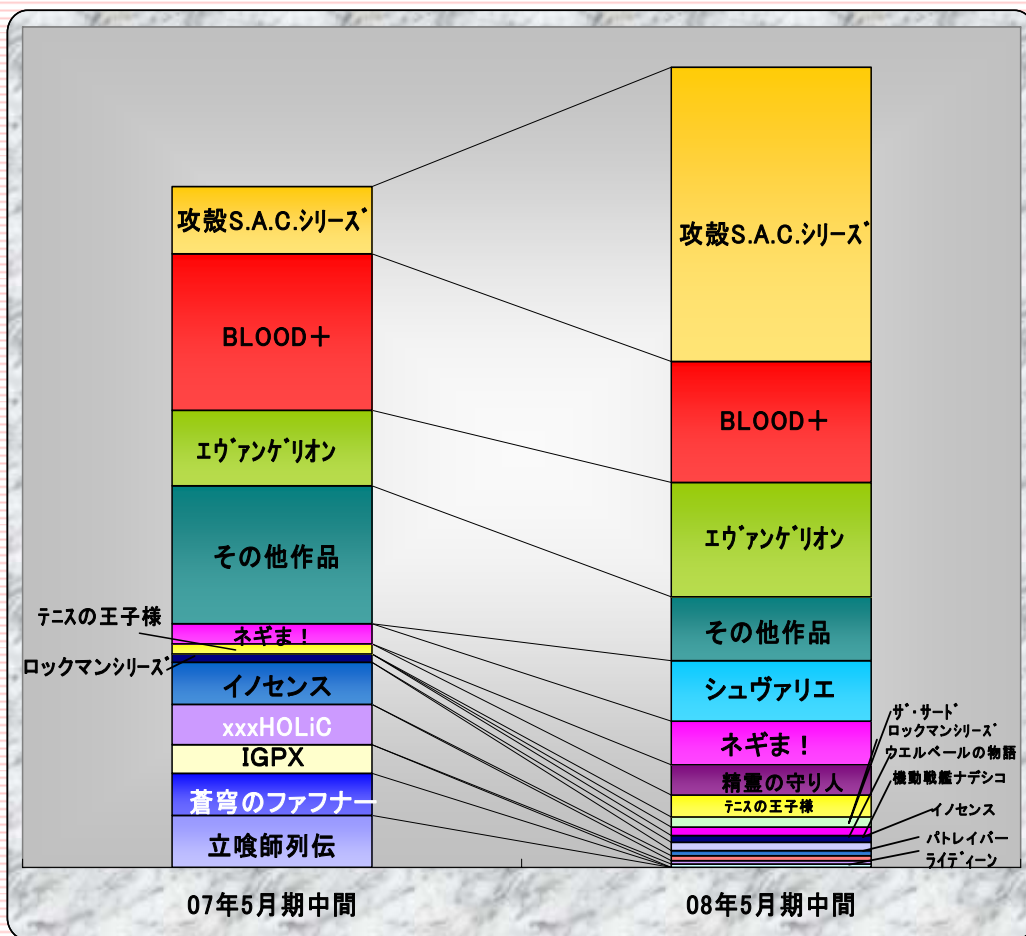
「精霊の守り人」「神霊狩/GHOST HOUND」「ウェルベールの物語」「ロックマン シリーズ」「武装錬金」などを制作。

また、OVA作品として「テニスの王子様 シリーズ」「東京マーブルチョコレート」などを制作。

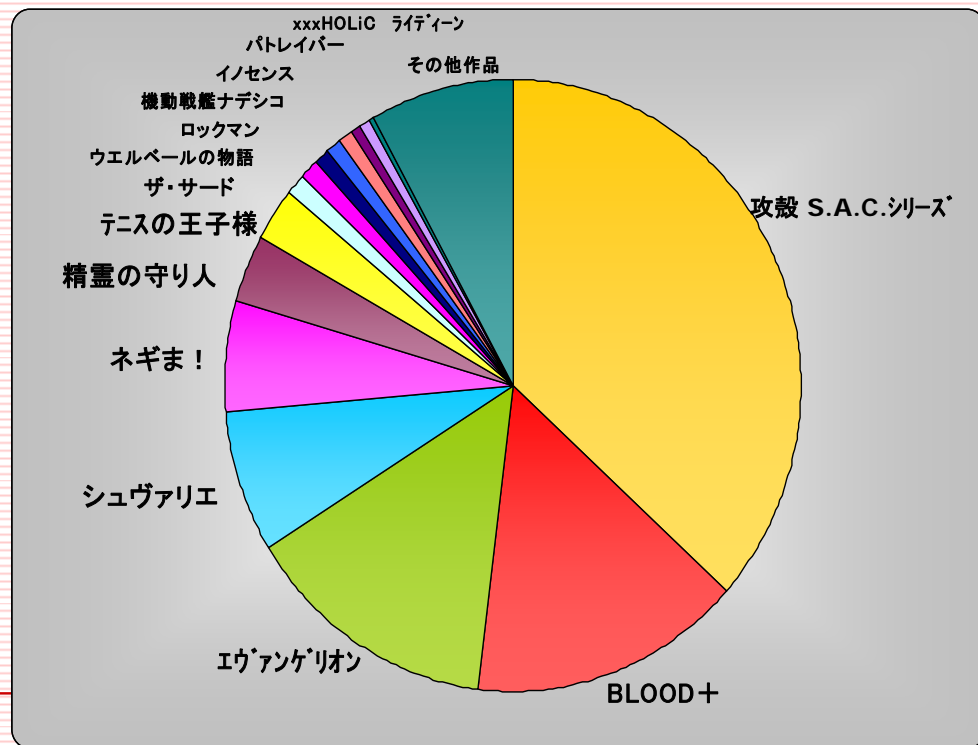
2008年5月期中間決算(著作権収入構成・前年同期比)

- 過去の人気作品「エヴァンゲリオン」「攻殻機動隊 S.A.C.」シリーズのDVDBOXが発売となり、前年を大きく上回った。
- 上記2作品はグッズ等の商品化も好調に推移しており、著作権収入の拡大に寄与している。
- 逆に新作のDVD販売は押しなべて低調であり、新作DVDの販売本数を過去人気作品が上回るという逆転現象が起きている。

著作権収入構成前年同期比



08年5月期中間 著作権収入構成比

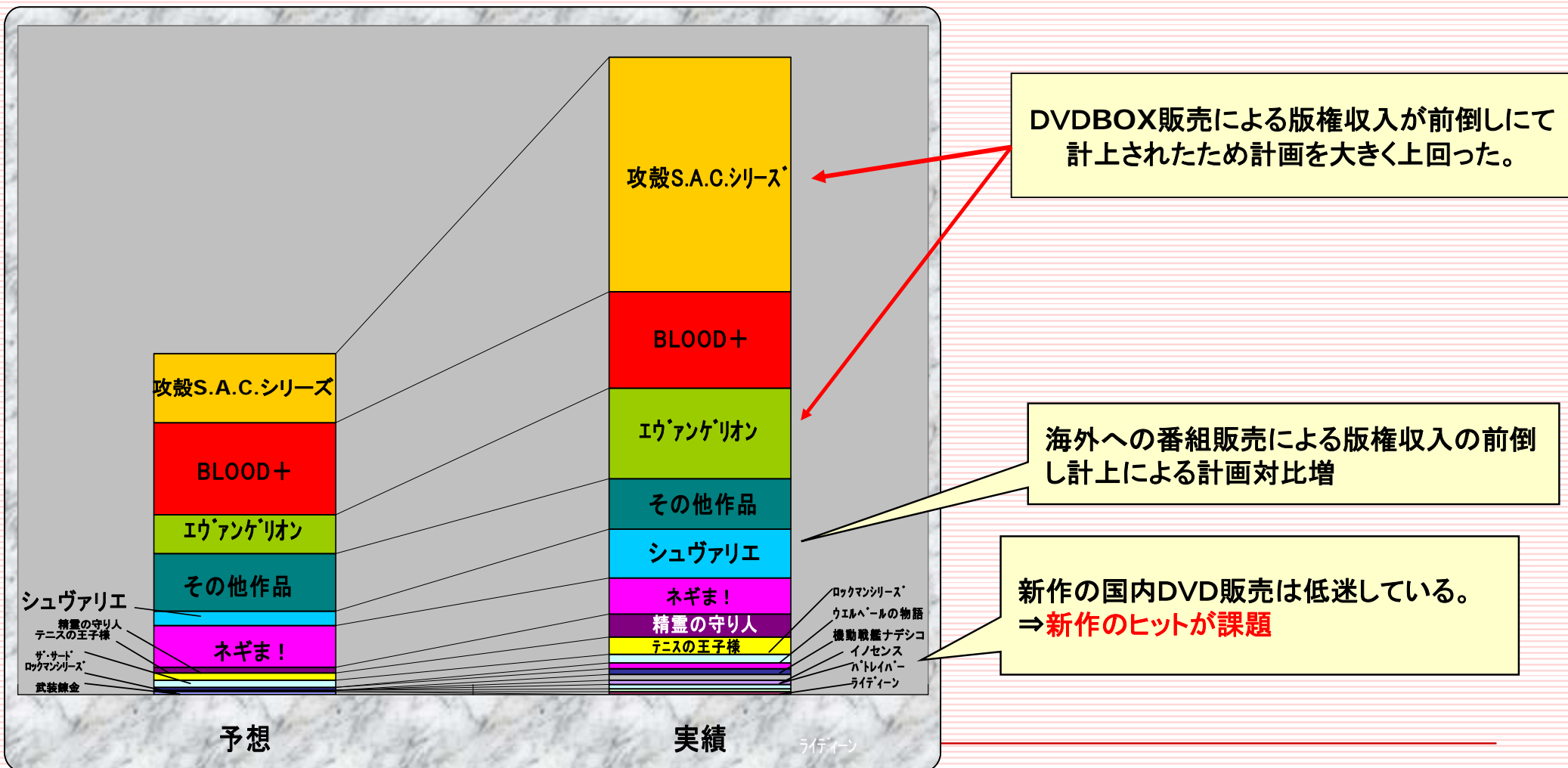


単位:百万円

2008年5月期中間決算(著作権収入・計画対比分析)

- 基本的には期初立案した著作権収入予測を各作品とも上回って推移した。
- 上ぶれの主要な要因は、下期に計画していた過去人気作品のDVD販売による著作権収入が前倒し計上されたため。

著作権収入・計画対比分析



DVDBOX販売による著作権収入が前倒しにて計上されたため計画を大きく上回った。

海外への番組販売による著作権収入の前倒し計上による計画対比増

新作の国内DVD販売は低迷している。
⇒ **新作のヒットが課題**

単位:百万円

当期のトピックス

株式会社IGポートへ商号変更。持株会社化へ

■旧株式会社プロダクション・アイジーを持株会社化し、株式会社IGポートへ商号変更。持株会社体制に移行した。

■新設でアニメーション制作会社を設立。株式会社プロダクション・アイジーの商号は当該新設会社が引き継ぎアニメーション制作を行う。

株式会社マッグガーデンを株式交換により完全子会社化

■東証マザーズ上場のコミック専門出版社 株式会社マッグガーデン(証券コード3720)を株式交換によって完全子会社化。

■株式会社マッグガーデンの子会社化に関しては後述

※正確にはマッグガーデンの子会社化は12月に実施されましたが、現時点では既に子会社化済ですので、記述いたしました。

2008年5月期業績見込

2008年5月期 業績見込み(前年同期比)

2008年5月期は経常増益を見込む。

■コミック専門出版社株式会社マッグガーデンの連結により、売上高は過去最高の6,500百万円を見込む。

■経常利益は360百万円と前年比32%増を見込む。(当初は420百万円の計画であったが、保険見直しに伴う解約返戻金を監査法人と協議の上、営業外収益から特別利益に振り返るため、期初開示した利益計画から見ると▲60百万円となる。また、マッグガーデンは08年3月期はほぼトントンの利益計画のため、連結での損益に与える影響は軽微である。)

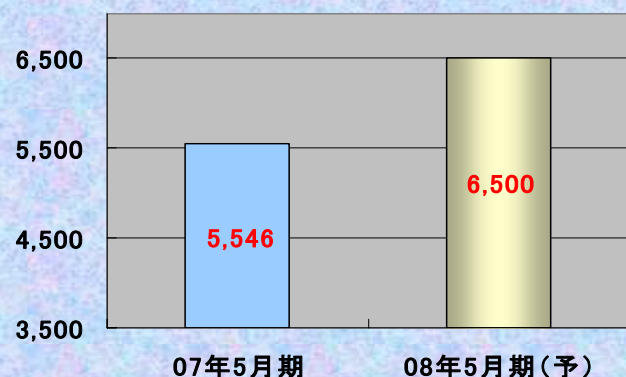
■アニメーションへの出資分(映像マスター)の耐用年数を2年から1年に変更することにより特別損失(113百万円)を計上。当期利益はほぼ横ばいを見込む。

■連結売上高……………6,500百万円(前年比 +954百万円 17.2%)

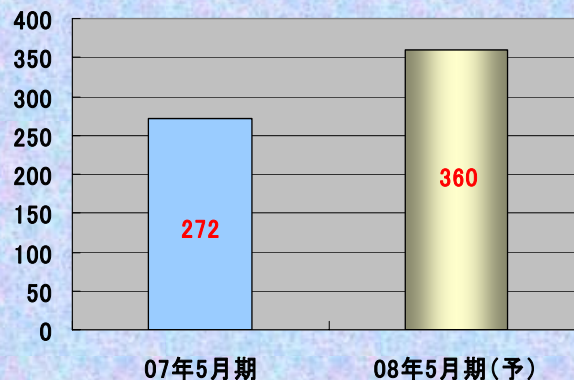
■連結経常利益……………360百万円(前年比 +88百万円 +32.2%)

■連結当期利益……………170百万円(前年比 +5百万円 +3.0%)

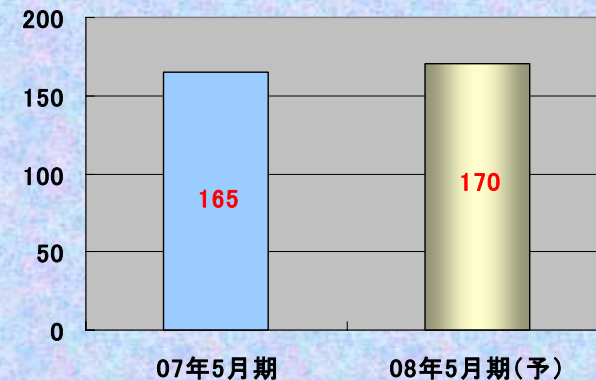
売上高



経常利益



当期利益



単位:百万円

映像マスターの耐用年数変更処理に関して

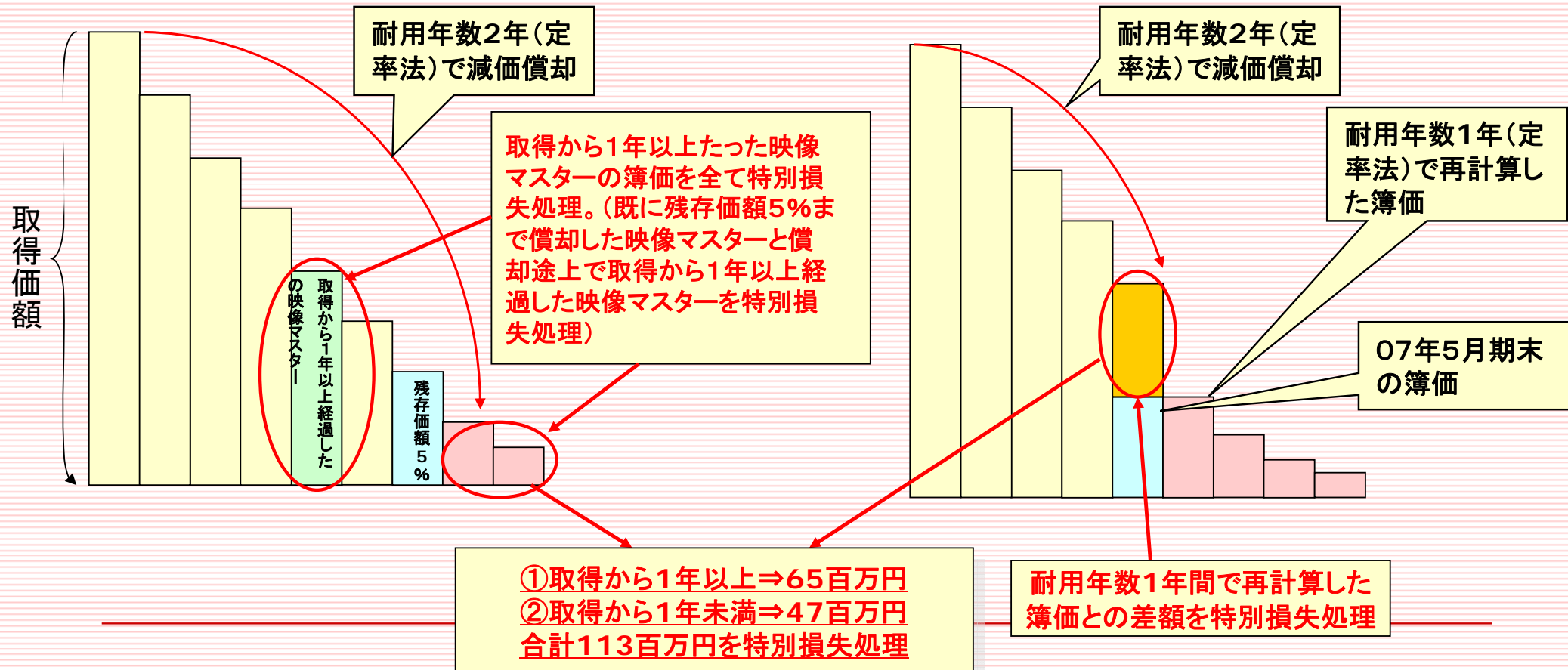
■ 当社はこれまで、映像作品への出資を「映像マスター」として固定資産計上し、耐用年数2年で減価償却していたが、このたび耐用年数の見直しを行い07年6月以降取得の「映像マスター」から1年間で償却を行った。

■ 当該処理に伴い07年5月以前取得の映像マスターも、耐用年数を1年間として再計算を行い、既存償却額との差額を「特別損失」として07年6月に計上した。

■ **新規取得の映像マスターは耐用年数1年で残存価額1円まで減価償却を行う。07年4月から適用される「固定資産減税」(残存価額1円まで償却可能)にも対応。**

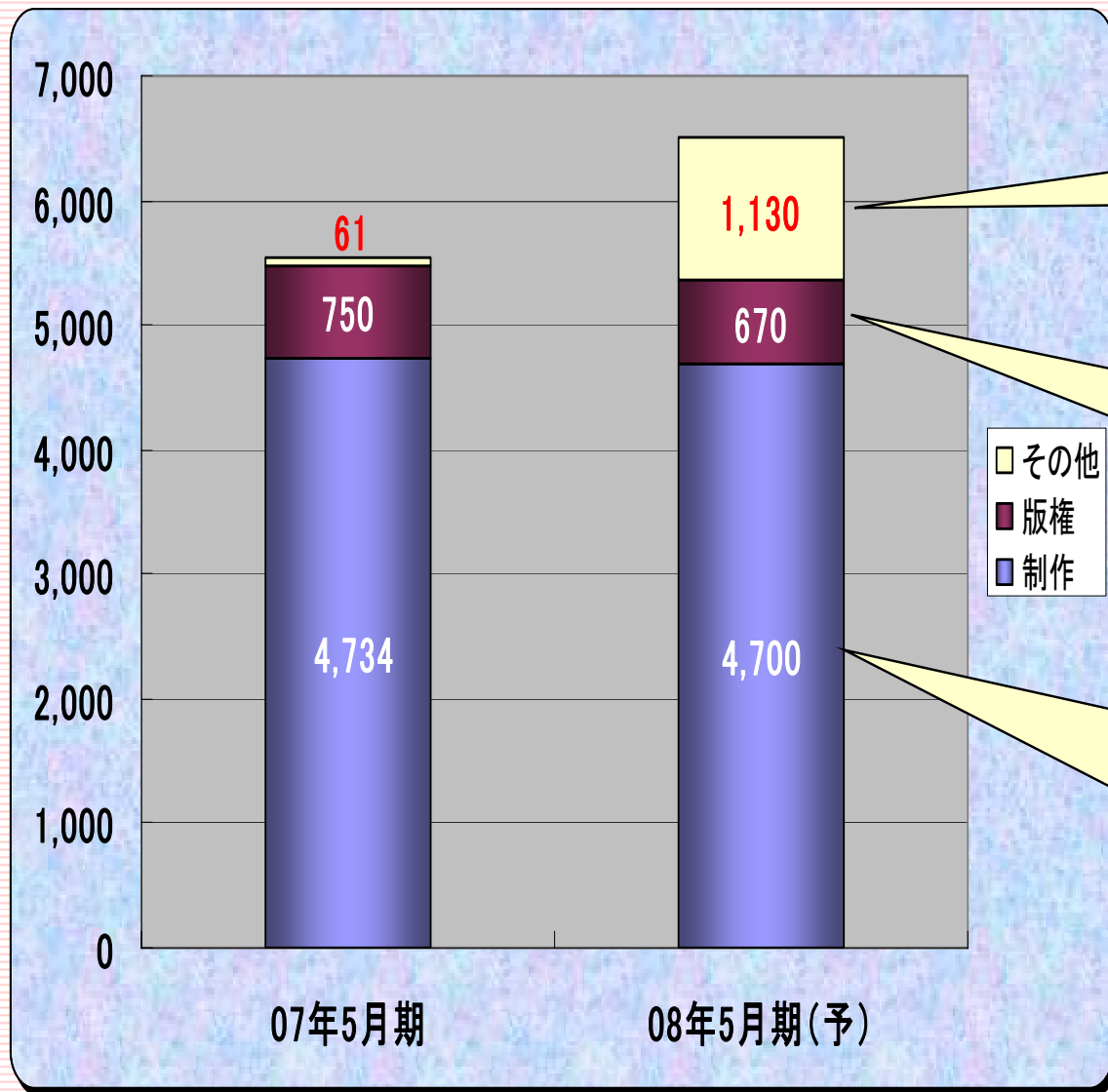
①取得から1年以上たった映像マスター

②取得から1年未満の映像マスター



2008年5月期 業績見込(セグメント別分析・前年同期比)

単位:百万円



その他事業収入

マッグガーデンを連結するため07年5月期対比で大幅に増加の見込み

著作権事業収入

08年5月期下期
「エヴァンゲリオン」「テニスの王子様OVA」
「ツバサ・クロニクルOVA」等の著作権収入を見込む

制作事業収入

08年5月期下期
劇場作品「スカイ・クロラ The Sky Crawlers」(4Q予定)
TVシリーズ「神霊狩/GHOST HOUND」
「RD 潜脳調査室」「xxxHOLiC 2」(仮)「ムネモシユネ」ほか大型作品1本等を見込む。

著作権事業と制作事業で若干の入り繰りはあるが、トータルとしてはマッグガーデンの連結分がそのまま期初計画との売上の増加になっている構造といえる

下期の主要な作品

08年5月期 下半期前半(12月～2月)

08年5月期 下半期後半(3月～5月)



- ・「攻殻機動隊」の原作者である士郎正宗氏と当社の共同原作企画
- ・07年10月よりWOWOWにて放送開始。現在も放送中

「神霊狩/GHOST HOUND」



- ・「攻殻機動隊」の原作者である士郎正宗氏と当社の共同原作企画
- ・08年4月より日本テレビ系(一部地域を除く)にて放送開始。

「RD 潜脳調査室」



- ・「イノセンス」の監督、押井守監督の最新作
- ・日テレ・I.Gの提携作品として制作
- ・08年夏にワーナー・ブラザーズ映画配給にて全国公開

「スカイ・クロラ The Sky Crawlers」



- ・07年春から放映された当社原作企画の第二シーズン
- ・マッグガーデンとの資本・業務提携第一弾としてコミック化され単行本が発売中

「ウエルベールの物語 ～Sisters of Wellber～」



- ・06年4月からTBS系列にて放送された人気シリーズの続編
- ・前作の高視聴率を受けて続編を制作
- ・08年4月よりTBS系で放送開始

「xxxHOLiC 2」(仮)



- ・07年4月からNHK-BS2にて放映された、「精霊の守り人」が視聴者からの強い要望により08年4月よりNHK地上波にて放送開始。
- ・「攻殻機動隊 S.A.C.」の神山健治監督が脚本・監督を担当。

「精霊の守り人」



- ・女性に絶大な人気を誇る漫画家集団「CLAMP」原作コミックのアニメ化
- ・講談社が企画・発売するコミック単行本とDVDのセット販売企画
- 第1巻は4万本を超えるヒットとなった。

「ツバサ TOKYO REVELATIONS」



- ・原作は累計45万部の有川浩の人気小説
- ・08年4月よりフジテレビで放送開始
- ・放送枠は「のため カンタービレ」「もやしもん」等のヒット作が続くフジテレビ「ノイタミナ」枠

「図書館戦争」

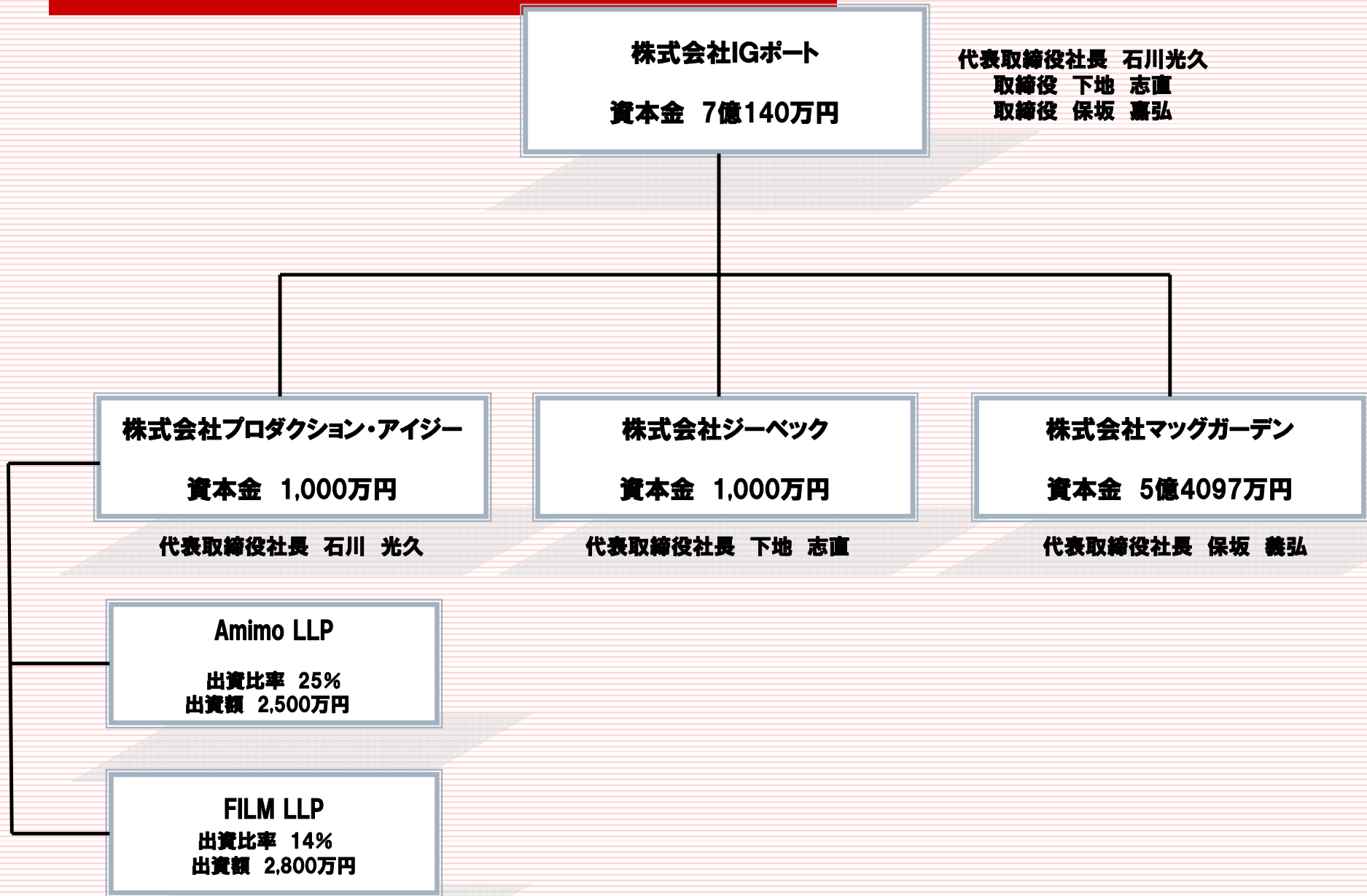
ほか大型TVシリーズ作品1本が4月から放映開始。

08年4月から地上波で再放送を含む5タイトルのTVシリーズが放映を開始する。

うち2作品が当社原作企画

持株会社化と株式会社マツグガーデン との経営統合に関して

2007年12月以降(経営統合後)のグループ図



持株会社 株式会社IGポートの概要

社名	株式会社 I Gポート
本店所在地	東京都国分寺市
決算期	5月決算
上場取引所	JASDAQ証券取引所
代表取締役社長	石川 光久 (現 株式会社プロダクション・アイジー代表取締役社長)

●「ポート(PORT)」とは、英語の「港」から命名した。

それぞれの会社を事業という航海に乗り出す「船」にたとえ、持株会社を戦略を立てる「港」という位置づけ、傘下の各社は実際の航海(事業)を行う「船」として戦術を担当する。

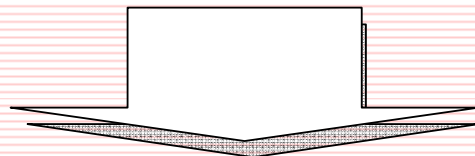
経営統合の背景

アニメーションを巡る環境

- アニメーションDVD
市場の低迷
- DVD販売のみを収益としたビジネスモデルの低迷

コミックを巡る環境

- コミック雑誌販売部数の減少
- モバイルコミックスの伸長等
紙からネットへのシフト傾向



●ただし、優れたコンテンツへの需要は衰えず、アニメ/コミックともメガヒットは生まれている。

⇒コンテンツ開発力の優劣が、企業の生き残りを分ける！

両社の戦略と統合の目的

プロダクション・アイジー

- コンテンツを源流から押える。(原作権の確保)
- TVシリーズ作品にはコミック原作を数多く活用。

マッグガーデン

- コミック原作をアニメ・ゲーム
モバイルなどマルチメディア展開

-
- 高い制作能力を有するプロダクション・アイジーとコミック原作を数多く保有するマッグガーデンの統合により、事業シナジーを創造

経営統合後の目指す姿

原作の企画から映像化までをカバーするコンテンツプロバイダー

中期目標イメージ(2011年5月期)

売上高 84億円

経常利益 8億円(経常利益率9.5%)

両社のこれまでのコンテンツ資産を活かし、マルチメディア展開

プロダクション・アイジーの高いブランド力とコネクションを活用

クリエイティブの尊重という基本精神を忘れず、優良コンテンツを創造

経営統合によって見込めるシナジー効果

コスト効果	上場コストの削減	<ul style="list-style-type: none">・マッグガーデンはIGポート傘下入りに伴い上場廃止。・年間約5,000万円のコスト削減効果が見込める
	事業シナジー	
	マッグ原作のアニメ化	<ul style="list-style-type: none">・マッグガーデンが保有するコミック原作をアニメ化・原作から映像化までひとつの企業グループで一環して制作可能
	ネット・モバイルへの共同展開	<ul style="list-style-type: none">・コンテンツホルダーとしてネット・モバイルへのコンテンツ提供窓口の一本化。・マッグの原作ライブラリーとI.G版権の有効活用
	コンテンツの共同開発	<ul style="list-style-type: none">・両社のクリエイター・プロデューサーでのコンテンツ共同開発。・マッグの原作輩出ノウハウとIGの映像制作能力のシナジーを目指す。
	IGコンテンツの出版物化	<ul style="list-style-type: none">・I.Gコンテンツ資産の出版物をマッグから出版。・アニメのコミック化のみならず、様々な出版形態が想定可能

経営統合後の課題

□マッグガーデンのコスト構造の見直し□

⇒現状低迷している同社のコスト構造を全般的に見直し、グループへの収益貢献可能になさしめること。(地代家賃・人件費・在庫管理等固定費・ランニングコスト、既に分析を開始。また、昨年から進めているコミックスの適正配本によって返本率は前期比4%低下)

⇒**低下した経常利益率・ROEの引上げ(のれんは総額268,538千円 10年償却)**

□両社のクリエイティブの融合□

⇒①マッグガーデン原作のコミックのIGグループによるアニメーション化

②IG原作によるコミック原作の輩出

③両社共同による優れたコミック原作の輩出

□その他□

⇒IG既存コンテンツの活用によるマッグガーデンでの出版物化

具現化しつつある事業シナジー

マッグガーデン原作
コミックのI.Gポート
グループでのアニメ化

現在2作品において企画が進行中

プロダクション I.G原作
アニメーションのマッグ
ガーデンによるコミック化

「ウエルベールの物語 ~Sisters of Wellber~」
「神霊狩/GHOST HOUND」
2作品においてコミック化が実現

プロダクション I.G
クリエイターによるコミッ
ク原作の輩出

「攻殻機動隊 S.A.C.」の脚本に参加した脚本家である櫻井圭記による「特務機甲隊クチクラ」がマッグガーデンのコミックBLADEにて07年12月より連載開始

プロダクション I.G既存
コンテンツを活用したマッ
グガーデンでの出版物化

第一弾としてプロダクション I.Gの看板タイトルである「攻殻機動隊 S.A.C.」の原画集を発売の予定

即効性のあるコスト構造の見直しと、事業シナジーの構築を早急に進めていきます。

お取り扱いの注意

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的とはしておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した物であり、潜在的なリスクや不可実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などの様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。